八寸の榧の碁盤が伊藤章紘君に贈呈

南大沢囲碁同好会　小川浄二

最近、七段の小学３年生と２度打つ機会がありました。楽しくもありちょっぴり緊張するものです。負けることの不安です。この生徒の名前は伊藤章紘君といいます。現在岩田子供教室(岩田九段)に入門して研鑽を積んでいます。対局態度は落ち着きがあり好感が持てます。少し早打ちですが、大事なところはじっくり読みを入れるのを忘れません。辛くも２目残りました。

ところで横浜在住の友人より、従兄の方が愛用されていた材質が榧(かや)で厚さ八寸(24.2 センチ) の碁盤と 10 ミリの日向蛤、那智黒の碁石をどなたかに寄贈したいとの申し出がありました。その依頼を受けたとき、私は伊藤君が頂くのが最適任と思いました。

樹木図鑑によれは、榧は直径１メートルに成長するには 100 年かかります。美しい木肌や木目で表面は光沢があり、油分が豊富で適度の堅さと弾力があります。使えば使うほど淡黄色の艶がでてくるといわれます。そして特有の香りは気品にあふれるとの解説です。碁盤としては最高級品といわれます。日本棋院の幽玄の間でプロ棋士の対局で使われるのと同じ碁盤です。

伊藤章紘君のことです。2022 年８月に東浅川保健福祉センター主催のこども囲碁教室にやってきました。席亭の南正一郎氏は伊藤君の棋力を知って八王子囲碁センターを紹介し、爾来毎週日曜日に倉内　満八段の指導を受け始めました。あっという間に六段になり、第五回多摩地区市町対抗囲碁団体戦で八王子チームの一員として選ばれました。

伊藤章紘七段への榧の八寸盤贈呈式

最近岩田九段より七段のお墨付きを頂いたようです。そして院生となり将来はプロ棋士という高みを目指しています。

伊藤七段との試し局

9 月 3 日に八王子囲碁センターで伊藤君への碁盤と碁石の贈呈式をやりました。伊藤君のお父さん、倉内滿先生や帖地美乃里先生、南正一郎氏、成田滋氏らが同席しました。早速この分厚い榧の碁盤で伊藤君と試し局を楽しみました。日向蛤が盤面に沈むようななんとも形容し難く、味わい深い感触でした。

(2023 年 9 月 4 日)